

令和 3年 7月 1日

## 議会報告・意見交換会報告書

天童市議会議長 様

代表者 山口 桂子 ㊟  
 記録者 佐藤 孝一 ㊟  
 班 員 伊藤 和子 ㊟  
 " 遠藤 喜昭 ㊟  
 " 鈴木 照一 ㊟

議会報告・意見交換会を開催したので、その概要を下記のとおり、報告します。

## 記

1 日 時	令和3年 6月 14日 (月) 午後 7時 ~ 午後 8時 00分	
2 会 場	天童商工会議所 会議室	
3 欠席議員	なし	
4 参加者数	5名 (男性 5名、女性 名)	
5 報告内容	議員定数・議員報酬について	
6 意見・要望等	市 民	議 員
	議会の運営をするのに必要な人数い れば十分である	
	定数は現状のままでいいのでは 生活基盤の安定を考えると報酬は上 げてもいいのでは	
	選挙に立候補する人間が少ないのと 定数の問題は切り離して考えるべき	
	現在の年収を時給計算にしてみても どのように考えるのか	

	自治会の会長や区長のなり手がいなくなっている 地域の互助のシステムが機能しなくなりつつある	
	スピード感を持って仕事にあたるべき	
	議員の仕事の魅力とはなにか	
	委員会には最低6人は必要ではないか	
	もっと議員の情報発信をするべきだ	
7 所 感		

天童青年会議所との懇談会報告書

1. 日 時： 令和 3 年 6 月 16 日（水）午前 10 時～午前 11 時 10 分
2. 会 場： 市立中部公民館
3. 参加者

（議員定数・議員報酬検討特別委員会）

水戸 保  
水戸 芳美  
三宅 和広  
野口 さつき  
五十嵐 浩之

（天童青年会議所）

赤塚 弘行  
高橋 和也  
渡部 潤一  
菊地 実穂子

4. 懇談内容

（議員）委員長から議員定数・議員報酬について検討するに至った経緯の説明）  
（自己紹介）

（参加者）若い世代はネットから情報を得ている。また、公民館に行く機会もない。そのため、議会で議会報告・意見交換会をやっていることを知らない。議会報告・意見交換会 の開催の周知や議員が何をしているのかなども含めて、ネットによる情報発信をして「見える化」を進めてほしい。

（議員から市議会議員の仕事について説明）

（参加者）議員定数について、上山が 15 人、東根が 18 人で天童の 22 人は人口に対し多いように感じる。22 人の根拠は何か。

（議員）以前は 30 人。その後 26 人となり、さらに 22 人になった。22 人に減らしたときは「多いのではないか」との意見があり、1 年半ほどかけて検討し、常任委員会の数などから 22 人とした。

（議員）人口規模が似ている自治体の議員一人当たりの人口を比較すると、天童は議員 1 人当たり 2,800 人と多い状況にある。

（参加者）議員 1 人当たり 2,800 人が多いか少いかは別として、その数的根拠が

知りたい。

(議員) 天童市の議員一人当たりの人口比で東京都を考えた場合、現在よりもっと多くの議員が必要になる。人口が多い自治体ほど議員一人当たりの人口は多くなる傾向にあるのではないか。

(参加者) 政務活動費は制約があるため報酬から支出する部分があると聞いている。そうしたことを考えると報酬は少ないのではないかと思う。定数を減らして報酬を上げて質の高い活動をしてほしい。

(議員) 議員は国民健康保険や国民年金の掛け金を個人で負担している。そうしたことを考えると市職員の39歳の平均給料額と同額になるようである。

(参加者) 「日本の若者が政治に興味がないことを悪く言う人がいる。裏を返せば、日本は裕福だから政治に興味がない。アフリカでは政治に興味がないと生きてゆけない。」という動画を見て、なるほどと思った。天童では議員が頑張ってくれているから政治に興味がなくても生きていける。ただそれでは天童市が持続可能ではなくなる。議会でどういう議論が交わされているかを若者が見学できればいいのではないか。

(議員) 傍聴はできるが、若い人は来ない。そうした点の広報がもっと必要と感じる。

(参加者) J Cで以前に事業として「子ども議会」をやったことがある。

(議員) 若い人は平日の日中は勤めているため、傍聴できないという理由もある。

(議員) 上山市で土日議会をやっているが、興味が失われてきていると聞いている。

(参加者) 一般質問するために調査のために現場に足を運ぶことがあると思うが、そうしたことの「見える化」も必要ではないか。

(議員) 若い人はSNSだと認識している。一方で高齢の方はあいかわらず印刷物である。また、一般質問で興味のある場合に傍聴に来る方がいる。

(議員) 広報委員会で現在、議会だよりの見直しを検討している。その中で、LINE公式アカウントを活用してプッシュ型で発行したことを通知し、スマホで見られるようにすることを検討している。

(参加者) 議員は市民には分からない苦勞があり判断しかねる。報酬を増やすとマイナスの意見が出ると思う。選挙の時の公約の達成度に応じて報酬の額を増やすことはできないか。誰が達成度を判断するかといった難しいところもあるが、公約を達成した方の報酬が多くてもいいのではないか。

(議員) 議員は執行権を持っていない。公約が達成できるかどうかは執行部の判断になる。

(議員) 議員の公約は一般質問などをして執行部に訴えて実現を目指すことになる。

(参加者) 公約が実現するまでの働きかけの様子を市民は知らない。知らないから報酬が高いのではないかという意見が出るのではないか。

(参加者) 公約が実現するまでの働きかけの様子を動画でアップしてはどうか。若者はストーリー性を好む。

(議員) 公約が実現されたら、それが次の選挙で投票につながればいい。そうすることにより議員のレベルアップにつながるのではないか。

(参加者) すごく勉強になるので、青年会議所の事業としてクロストークをするべきと思う。

(議員) 以前、保保連との話し合いで「議員はそこまで考えてくれていたのか」と言われたことがある。議員は活動を公開していかないと市民から何をしているか理解してもらえない。経済建設常任委員会で農協青年部と懇談したこともあった。

(参加者) 議員はどう考えているのか。

(議員) 議員アンケートを無記名で実施した。増員が1人、現状維持が4人、削減が17人だった。削減17人の内訳は、1人削減が1人、2人削減が4人、3人削減が7人、4人以上削減が5人だった。

時間をかけて話し合いをしていき、方向が決まったら議会として決定をする。

(参加者) 一人で活動するのか。

(議員) 志を同じくするもので会派を作る会派制をとっている。例えば、今回のコロナの対応で議員一人一人が意見を言われると執行部が困ってしまいます。会派としての意見をまとめてそれをコロナ対策支援本部で集約して執行部に挙げることにしている。

(議員) 一人だと活動しづらい。教えてもらう人がいないし、情報も入ってこない。

(議員) 私は無会派である。今回は検討特別委員会に入らせていただいた。

(議員) 2人会派である。意見が合わない部分もあるが、勉強になる。

(議員) 「個々の活動では話が通らないのではないか」「1年生議員だけでは活動に深みが出ない」「先輩議員からいろいろ聞ける」といった理由からグループを作ったのが始まりで、その何年か後に会派制になった。

(議員) 報酬を上げる場合は、その根拠を明確にしなければならないと考えている。平成8年に変わった時には消費税はなかった(当時の消費税率は3%)。また、物価も上昇している。民間と比べると低くない状況であるが、健康保険などの出る方も考える必要がある。その辺も精査して検討する必要がある。また、報酬については報酬審査会で検討することになる。